

新しいスターウォッチング



そらんぽ四日市
ホームページ

当館のきらら号「スターウォッチング」では、感染症対策として、小型望遠鏡で「でんし電視観望」を行っています。電視観望とは、望遠鏡に付けたカメラで星の光を捉え、パソコンなどの画面に映すもので、直接望遠鏡をのぞく「がんし眼視」に対して、電子機器を通して天体を見るため「電視」と呼ばれます。望遠鏡をのぞく際の接触を回避できる観測方法として、注目されています。

また、この電視観望には、感染症対策以外にも、大きなメリットがあります。それは、多くの人が同時に観察できるということです。例えば、今年11月8日の皆既月食中には、「天王星食」

という現象が起こります。これは、天王星が月に隠される現象ですが、誰かが望遠鏡をのぞいていれば、他の人は月に隠されるその瞬間を見ることができません。しかし、電視観望であれば、その場にいるみんなで、天王星食の瞬間を観測できます。ちなみに、惑星が皆既月食中の月に隠される惑星食は、1580年7月26日の土星食以来442年ぶりのこと。こうした珍しい現象は、なるべく多くの人と共有したいものですよね。



望遠鏡とパソコン画面に映し出された木星

☎ 博物館・プラネタリウム (TEL) 355-2700 (FAX) 355-2704

桑名宿と四日市宿の「立場」富田

江戸時代に入って、幕府が東海道を整備すると、四日市は43番目の宿場町として栄え、経済活動が活発になるとともに、交通の要所として発展しました。

富田は、桑名宿と四日市宿の間で旅人たちが休憩する「立場」があり、街道の両側には茶屋が軒を連ね、松ぼっくりを燃料にして焼いた富田の名物焼き蛤はまぐりを食べさせてくれるお店がありました。当時の浮世絵を見ると、行き交う人々や休息する人で賑わう様子が数多く描かれています。

また、幕府は、街道の1里（約4km）ごとの両側に目印となるえのき榎などの樹木

を植えた大きな塚を設けました。

下の写真は三重県指定文化財（史跡）「富田の一里塚跡」です。近鉄名古屋線の高架と東海道が交差する近くにあります。

現在では、当時の面影は姿を消し、道路の片側だけに一里塚があったことを示す石碑が建てられ、そのかたわらにかかる橋に「一里塚橋」の名前が残されるばかりです。



三重県指定文化財（史跡）
「富田の一里塚跡」と今の東海道

☎ 文化課 (TEL) 354-8238 (FAX) 354-4873